

# 大洲市立博物館報

第20号  
〒795-0054  
愛媛県大洲市中村618-1  
大洲市立博物館  
TEL&FAX (0893) 24 - 4107

## 身近で魅力的な施設「博物館」の活用

館長 前野 隆 裕

### レファレンスサービス

博物館の主な役目として、資料の収集、保管、整理、展示、調査研究、教育活動があります。一般的には、展示物の観覧や各教室・講座の参加という方法で当館をご利用いただいています。が、この他「レファレンスサービス」を利用される方も少なからずおられます。

「レファレンスサービス」とは、もともと図書館で発達したサービスで、適切な訳語がないようですが、分かりやすい説明として「調べもの、探しものお手伝いします」と紹介されているサービスです。要は調査研究に関する各種お問い合せへの対応のことです。

これまでであったお問い合せで多いのは、ご先祖調べ（ルーツ探し）ですが、これは大変難しく、戸籍や家系図、家紋などの記録や実物が残されていないとお応えできません。

他に、「北海道洞爺湖畔にある加藤農場の

跡地に北海道に自生しない「ヒッコリー」が育っている。これは一三代藩主加藤泰秋公が植えられるために大洲から持ってきたものか。」

「瀧本伊能に関する生涯記録や大洲の家族に関する記録はないか。」

回答として、「泰秋公の長男泰治氏（東北帝国大学教授）は、カナダのモントリオールに留学され結婚されて札幌農学校に勤められているので、北米原産のヒッコリーの種子を移植できる環境にあったと考えられる。」

「井伊大老を襲撃した中心人物を支えた女性ではあるが、出身地の大洲には記録が残されておらず家族についても不明である。」

という主旨を返信しました。こういった調査では、各種文献に当てる必要がありますが、大洲史談会で発表された資料や研究記録をまとめた会誌「温古」も参考になります。

「温古」は年一冊発行しており、昭和12年〜昭和16年までに五冊、昭和54年〜平成31年までに四一冊作成しています。この間に掲載された論文や随筆の総数は四六七点、中心として取り上げられた人物は約九〇名です。

「中江藤樹」が最も多く、「矢野玄道」「武田斐三郎」、「盤珪永琢」と続きます。時代区分では近世を題材にしたものが最も多くなっています。

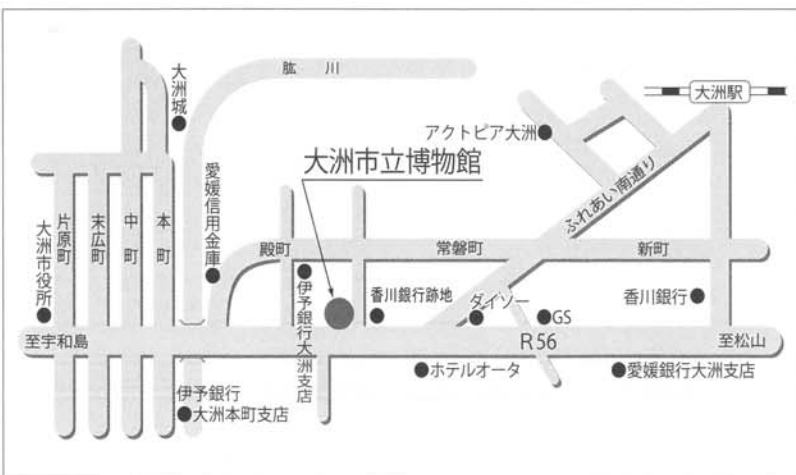
旧大洲藩の地域に関して、様々な視点で研究された興味深い本になっています。関心をお持ちの方は博物館で販売していますので、お問い合わせください。

### 職場体験

7月9日〜12日、大洲南中学校の生徒二名が当館で職場体験されました。展示会場設営や資料整理、ギャラリートークに挑戦していただきました。



民具についての説明体験



● 入館のご案内 ●

開館時間 午前9時〜午後5時

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

12月29日〜1月3日

入館料 無料

位置 国道56号線沿い三笠通り「社会教育センター」内

4階、5階が博物館

1階は駐車場

2階、3階は肱北公民館

# 本年度 展示計画

## □4階展示室

### 【常設展】

大洲の歴史と文化

「中江藤樹」

「シーボルトと三瀬諸瀨・高子」

### 【特別展】

「八幡神社の祭礼」

10月12日～12月22日

※八幡神社祭礼調査報告会

11月17日（大洲青少年交流の家）

### 【特設展】

大洲ゆかりの仏教美術

4月20日～7月21日

近世・近代大洲名所

7月30日～9月29日

大洲城絵図の世界

1月4日～4月12日



4階展示室「近世・近代大洲名所」

## □5階展示室

大洲地方の自然と暮らし（常設）

化石・鉱物・岩石と動物の剥製や植物標本、民具資料などを展示

### □5階特別展示室

県展入選者（大洲市在住）作品展

並びに大洲高校美術部生徒作品展

4月20日～5月31日

第18回「レンガのある風景」

はがきコンクール作品展

7月13日～9月1日

藤樹まつり児童生徒書画作品展

10月23日～11月17日

市内児童理科作品展

12月中旬～1月中旬



5階特別展示室「県展入選者作品展」

# 大洲史談会

今年の3月末に「堺鉄砲鍛冶屋敷

井上関右衛門家 資料調査報告書」が発行されました。これは堺市と関西大

学が共同で取り組まれた事業の成果報告書で、約二万点に及ぶ膨大な史料を

調査・整理されたものです。

大洲藩を抱えの鉄砲鍛冶であった井

上家の歴史的価値に気づかれ、資料公

開に向けて井上氏を説得されたのが、

故「上杉潤」前会長です。大洲とゆか

りの深い井上家の今後の調査結果に注

目していきたいものです。

大洲史談会 本年度の活動

4月13日（土）総会 記念講演

「堺・井上関右衛門家資料について」

5月11日（土）講話

「薩長連合・海援隊・岩崎といろは丸」

6月1日（土）研修旅行 福岡県

「山本作兵衛の炭鉱記録」

7月13日（土）講話

「二宮啓作の父 六彌について」

9月14日（土）講話

「大洲藩犯科帳」

10月19日（土）講話

「加藤家日誌から読み取れるもの」

11月9日（土）外部研修会に参加

「ふるさと大学 伊予塾」

12月（日時未定）清掃活動

「大洲城 ボランティア清掃」

1月11日（土）講話  
「竹内中将について」

2月9日（日）講話  
「平野風土記」

3月14日（土）現地研修  
「八幡浜日土方面」



6月福岡県「田川市石炭・歴史博物館」にて

## 会員募集

大洲史談会では、広く会員を募集しています。歴史に興味のある方、地域のことを知りたい方、史談会に入りませんか。

◇年間十回の例会があります。お気軽にご参加ください。

◇会費は、年二千元です。（入会金は不要です。年度末に会誌「温古」をお届けします。）

◇申込みを希望される方は、大洲市立博物館にご連絡ください。随時受け付けています。

☎（〇八九三）二四一四一〇七

**特別展示室の利用案内**  
絵画、写真、美術工芸品などの展示会場として無料で利用できます。利用を希望される方は、当館にお問い合わせください。

自然の不思議に感動

大洲自然科学教室

◇昭和62年5月30日第一回少年科学教室から数えて、今年度末で通算二百三十三回に達します。

◇毎年5月に会員を募集しています。今年度から小学校五・六年生に加えて、四年生も対象にしました。現在の会員数は五十五名です。

◇指導者は、主に大洲市理科同好会(小中学校教員)の先生方です。

◇入会費は不要ですが、保険料は必要です。講座の内容によっては、バス代や入館料等を集金します。



第4回教室 源氏ヶ駄馬にて

● 本年度の活動

6月15日(土) 大洲市防災センター 飛行体とストロー笛の作製(雨天の

ため水生生物の観察を変更)

7月13日(土) 伊方町瀬戸

シラス漁体験とチリメンモンスター  
の観察、三崎半島の自然観察

8月12日(月) 13日(火)

国立大洲青少年交流の家(宿泊体験)  
ペルセウス座流星群と惑星の観察

8月31日(土) 西予市大野ヶ原

大野ヶ原の植物と地質の学習

10月12日(土) 高山寺山

秋の自然観察(親子体験学習)

11月16日(土) 今治市大三島

しまなみ海道の自然観察  
野鳥観察と地形・地質の学習

わくわく歴史探検

大洲歴史文化教室

◇平成6年8月10日第一回大洲歴史文化教室から数えて、今年度末で通算百五十五回に達します。

◇毎年5月に小学校四・五・六年生を対象に会員を募集しています。今年度の会員数は二十六名です。

◇指導者は小学校教員を中心とした歴史に詳しい方々です。

◇入会費は不要ですが、保険料は必要です。講座の内容によっては、バス代や入館料等を集金します。

● 本年度の活動

6月22日(土) 臥龍山荘・興禅寺

市内の史跡めぐり

7月27日(土) 今治市宮窪

村上水軍の歴史と潮流体験

8月24日(土) 会場・平小学校

和紙の歴史の学習と和紙づくり体験

9月7日(土) 西予市宇和町

開明学校と町並み・札所の見学と  
愛媛県歴史文化博物館での学習

10月5日(土) 龍澤寺・城川歴史  
民俗資料館 城川の歴史と文化の学習

11月9日(土) 河後森城址  
松野町の歴史と文化の学習



第1回教室 臥龍山荘にて

知る楽しみ、学ぶ喜び

ふるさと見聞講座

◇一般市民の皆様を対象に、毎年5月に会員を募集しています。年度途中

からでも入会できますので、気軽に参加ください。現在会員数七十八名です。

◇バスを利用する講座の場合、参加人数が制限されます。その都度申し込んでいただきます。(希望者多数の場合、申込み先着順で参加者を決定します。)

◇受講料は無料です。ただし、現地研修や創作活動は実費を集金します。

● 本年度の活動 ●

7月4日(木) 講話

「令和改元面白ゼミナール」

9月26日(木) 新居浜市現地研修

「日暮別邸の見学と住友の歴史」

10月24日(木) 高知県現地研修

「モノの庭と中岡慎太郎館」

11月28日(木) 講話

「大洲城の石垣を直す」

12月 講習

「クリスマス&お正月の花飾り」

1月 現地学習

「バードウォッチング」

2月 講話

「盃状穴の世界」



7月講話  
「令和改元面白ゼミナール」



【大洲ゆかりの資料紹介】

堺の鉄砲鍛冶

井上関右衛門と大洲加藤家

堺市には、江戸時代を通じて鉄砲鍛冶を営んだ井上関右衛門の屋敷「鉄砲鍛冶屋敷」が残されています。近年、堺市が本格的な調査を実施したところ、膨大な資料が確認され、江戸時代の鉄砲産業の歴史を知る上で大変貴重なものとして、注目を浴びつつあります。

詳しくは、堺市と関西大学が発行した「資料調査報告書(二〇一九年三月)」に譲り、ここでは井上関右衛門と大洲藩との関係について、さわりだけご紹介したいと思います。

堺には、鉄砲鍛冶師をはじめ鉄砲製造に関わる職人が多数おり、鉄砲年寄



と呼ばれる家を取りまとめていたが、井上家は一般の平鍛冶と呼ばれる家の一つでした。当時の鉄砲は火縄銃で、その製作にあたっては、銃身部分を作る職人(鉄砲鍛冶師)、檜の木で台座の部分を作る職人(台師)、そして台座にある鉄砲の発射装置の金具(カラクリ)を作成する職人(金具師)が分業で関わり、鉄砲は作られました。もちろん地方の城下町にも鉄砲鍛冶師がおり、大洲藩では安達・黒田・藤田などの家がありました。先ほど述べたとおり、鉄砲は数多くの職人が分業であつており、いわば職人集団が大勢いる場所、現代風にいえば工業団地を有していた堺が鉄砲製造において全国的なシェアを誇っていました。

井上家は、鉄砲鍛冶の屋敷としては、ほぼ唯一、江戸時代初期の建物が残っており、平成一六年には堺市により文化財指定を受けています。鉄砲の歴史や、堺の町を紹介するテレビ番組でも取り上げられる機会が増えており、すでにご覧になった方もいらっしゃるのでは無いでしょうか。

大洲藩加藤家は、豊臣秀吉の時代には甲府(現在の山梨県)を与えられ二四万石を治めていました。実は、井上家は、この時代に加藤家に仕えていた家だったのです。井上家の記録によれば、江戸時代初期に堺に移り、鉄砲鍛冶を始めたようです。もともと家臣であつたこともあり、大洲藩二代藩主の加藤泰興の時に、再び加藤家との繋がりが

復活し、泰興により大洲藩領内の鉄砲はすべて井上家に任せられる事になりました。また、井上家はそれまで、通称「八兵衛」と呼ばれていたようですが、これに「関右衛門」の名を与えたのも、泰興でした。主にあたる加藤家藩主の位牌が、現在でも鍛冶屋敷の仏壇に祀られているのはこのためです。実際、大洲をはじめ南予では井上関右衛門の鉄砲が数多く残されており、平成二六年結成の大洲藩鉄砲隊が使用する銃もほぼ全てが関右衛門です。

今から五年前、大洲城天守復元一〇周年には、井上家から道具を数多くお借りして、大洲城を会場に「井上関右衛門展」が開催されたのも、大洲藩と井上家との関わりがあつたからでした。これをきっかけとして、というと言いきりかたかもしれませんが、堺市で鉄砲鍛冶屋敷の調査が進められることになりました。最近では建物も井上家から堺市に寄贈され、数年をかけて修復し一般公開されるとのことで、調査が進んでいます。この調査により、井上家から膨大な記録資料などが発見され、関西大学の調査の結果、記録資料だけでも二万点に及ぶものでした。

この資料の分析によって、井上家は、大洲藩との関わりを持ち続け、江戸時代には全国六一藩から、鉄砲製造を依頼されていたことや、江戸後期には、堺の鉄砲鍛冶集団を取りまとめる「年寄」とよばれるリーダーとなり、大坂城が所蔵する一万挺余りの鉄砲のメン

テナンスも行っていたことなどが明らかとなっています。これまで、鉄砲に関する資料でこれほど大量なものは見つかつておりませんでしたので、この井上家資料により、今後研究がすすめられ、江戸時代、そして明治以降の鉄砲鍛冶師の移り変わりなどが詳しくわかり、鉄砲産業史上の発見が続々と出てきますので、井上関右衛門というキーワードをぜひ心に留めておいていただきたいと思ひます。

数年後を目途に、この鉄砲鍛冶屋敷が一般公開される折には、世界遺産となつた百舌鳥古墳群とともに、ぜひお訪ねいただけましたら幸いです。

